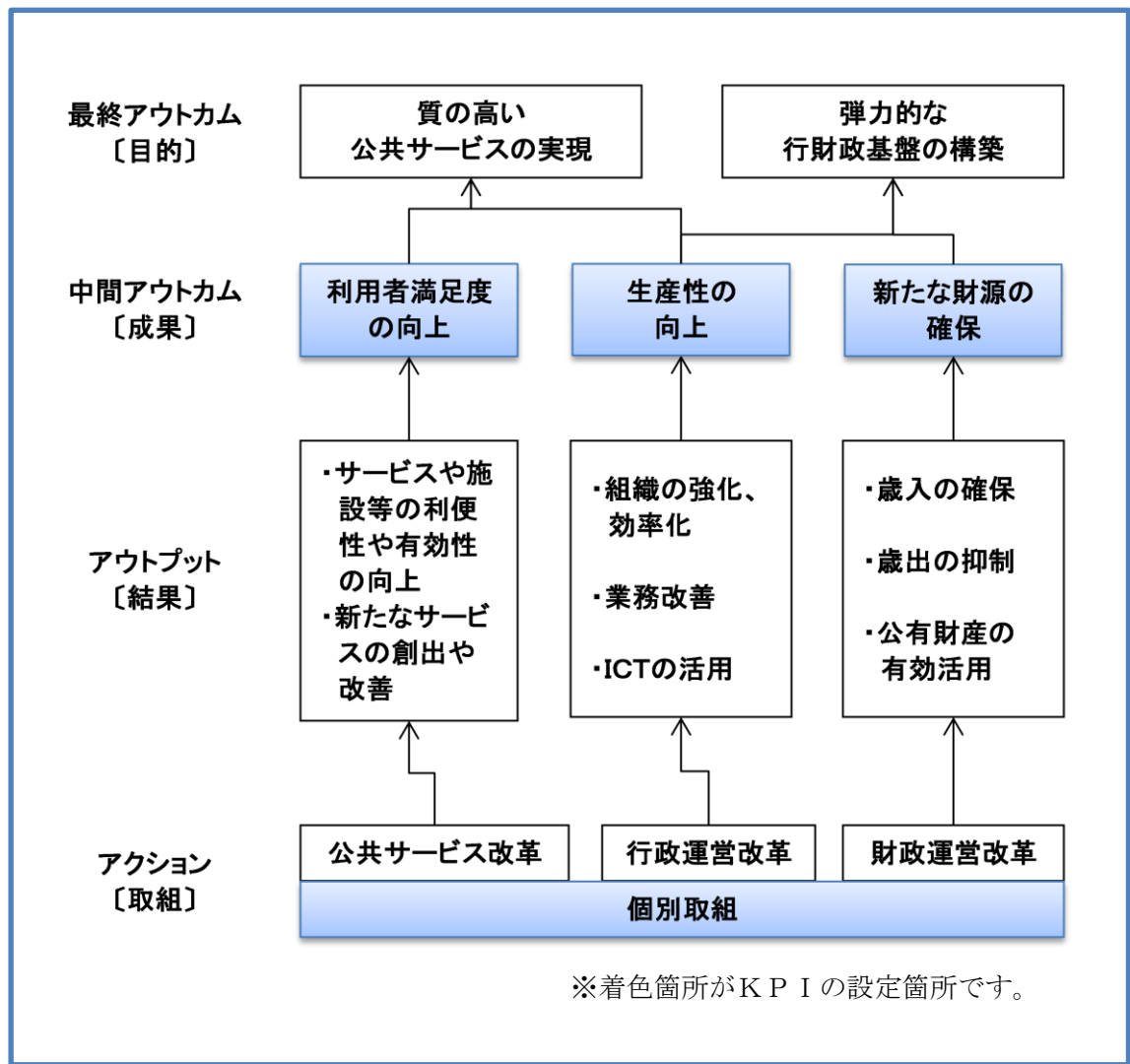


## K P I について（素案）

行財政改革プログラム及び第 2 期行財政改革プログラムにおいては、プログラム全体の目標として、行革効果額のみを用いて測定してきました。今後は、量的改革を継続しながらも、質的改革についても強化し、多面的に行財政改革の取組効果を測定する必要があります。

そこで、（仮称）第 3 期行財政改革プログラムにおいては、プログラム全体の進捗を確認するため、K P I（重要業績評価指標）を設定します。K P I は目的を達成するまでのプロセスごとに設ける指標であり、その指標と目標値を示します。

K P I の設定にあたっては、ロジック・モデルを活用して、下図の通り取組から目的までプロセスを整理し、本プログラム全体の進捗プロセスを踏まえて行います。



**K P I (重要業績評価指標)****■利用者満足度の向上度合**

- ・区役所窓口サービス評価：

〇〇. 〇% (平成 29 年度) ⇒ 〇〇% (平成 32 年度)

- ・指定管理者制度導入施設の利用者数や満足度など：

〇〇 (平成 28 年度) ⇒ 〇〇 (平成 32 年度)

**■生産性の向上度合**

- ・働きがい：〇〇. 〇% (平成 29 年度) ⇒ 〇〇% (平成 32 年度)

- ・改善風土：〇〇. 〇% (平成 29 年度) ⇒ 〇〇% (平成 32 年度)

- ・役職者における女性の割合：

20. 6% (平成 28 年度) ⇒ 〇〇% (平成 32 年度)

- ・時間外勤務時間数：

653, 496 時間 (平成 28 年度) ⇒ 〇〇〇〇〇〇〇 時間 (平成 32 年度)

**■新たな財源の確保度合**

- ・行革効果額：〇〇億円 (平成 30 年度～平成 32 年度)

**■個別取組の進捗度合**

- ・個別取組の達成率：〇〇% (平成 32 年度)